

平成 30 年 5 月

歯科衛生士養成機関 各位

一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会
理事長 眞木 吉信

歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告

拝 啓

貴校におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

全国歯科衛生士教育協議会では、歯科衛生士教育の現状を把握し、将来の歯科衛生士教育について検討するために、全国歯科衛生士教育協議会会員校の協力を得てアンケート調査を実施いたしました。今回は、昨年に引き続き全国歯科衛生士教育協議会理事会の要請に基づいて、①専任教員の職種と人数、②志願者、入学者、就職率、求人数の地区別データ、③男子学生数数、④入学者の卒業までの動向について分析を行いました。また、以下はその調査結果をまとめたものです。

各養成校の教育に対する現状と入学者の動向や就職状況を把握する上で欠くことのできない資料となるのではないかと考え、ご協力いただきました各校に送らせていただきます。

本調査へのご理解とご協力に対して、歯科衛生士養成機関各位に御礼申し上げます。

敬 具

歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告

1. 調査対象

本調査の対象は、平成 30 年 4 月現在、全国歯科衛生士教育協議会に加盟していた歯科衛生士養成校 164 校。

2. 調査実施期間

平成 30 年 4 月 9 日から 4 月 27 日にかけて郵送によるアンケート調査を行った。

3. 調査内容

本調査は各養成校に記名方式の調査用紙を封書で郵送し、下記の項目について回答を得た。

- 1) 平成 29 年度 卒業生数, 就職者数, 求人件数, 求人人数
- 2) 平成 30 年度 入学定員, 志願者数, 入学者数
- 3) 平成 30 年度 在学外国人留学生の国籍と人数
- 4) 在学中の男子学生数および男子学生受け入れの有無
- 5) 専任教員の人数

4. 結果

調査対象とした 164 校の養成校すべてから回答を得、回収率は 100%であった。

ただし、平成 29 年度の求人人数が未記入の回答があったため、求人人数については求人件数と同数であるとして集計処理を行った。

164 校中 4 年制の大学は 11 校、短期大学は 14 校、専門学校は 139 校であった。(学校数の合計は 2 校の移行中の養成校があるため、166 校となっている。専門学校のうち 2 校が入学生の募集を中止しており、2 校は大学・短期大学に移行中のため、入学定員等の学校数は 162 校で、また、昼間部と夜間部の 2 部制の養成校が 13 校あったが、昼・夜間を合計して集計している)

① 入学定員と入学者の推移

全国の入学定員は 9,055 名(220 名増)で過去最高となったが、入学者数は 7,570 名(293 名減)と減少となった。(表 1)

全国の入学定員に対する入学者数(入学定員充足率)は、平成 25 年度では 97.1%にまで達したが、平成 26 年度から再び減少傾向となり、平成 30 年度は 83.6%まで低下した。この減少傾向は、入学者に対する入学定員の著しい増加と入学者数の減少によるものと思われる。(表 2, 図 1)

また、入学者数が入学定員に満たない養成校は、平成 25 年度には 35.8%まで回復したが、平成 26 年度からは再び増加し、平成 30 年度は 59.9%とほぼ 6 割となった。(表 2)

入学定員充足率の年次推移を地区別に見ると、昨年までは増加している地区が見られたが、平成 30 年度ではすべての地区で減少となり、平成 24 年以降 100%を超えていた近畿/北陸地区でも 100%を下回った。(図 2)

② 入学定員と入学志願者の推移

全国の入学定員に対する志願者倍率は平成 25 年度では 1.32 倍となったが、平成 26 年度からはやや減少傾向となり、平成 30 年度は 1.09 倍となった。志願者数が定員に満たない養成校は 44.4%で昨年度よりもさらに増加した。(表 2)

志願者倍率の年次推移を地区別に比較すると、近畿/北陸地区と中国/四国地区での減少が大きかった。(図 3)

学校種別で志願者倍率では大学が、入学定員充足率では短期大学が高かった。(表 3)

③ 就職者数・求人件数・求人倍率の状況

平成 29 年度は卒業生数 6,975 名、就職者数 6,481 名で就職率は 92.9%であった。求人件数は 85,983 件で求人件数は 136,418 名、就職者に対する求人倍率は 21.0 倍の増加となり調査開始以降、最も高かった。(図 4)

また、地区別に求人倍率と就職率を比較すると求人倍率が高かったのは東北、関東/甲信越、東海地区で九州/沖縄地区が低かった。

調査時点で未就業である者の理由には、進学が最も多く、次いで結婚・出産・育児であった。養成校で就職状況を把握できていなかったり、就職活動中の者もあり、実際の就職者数は集計数よりも多いと思われる。

④ 在学外国人留学生の国籍と人数

在学外国人留学生は平成 25 年度では 15 名、平成 26 年度では 13 名、平成 27 年度および平成 28 年度は 11 名、平成 29 年度は 18 名であったが、平成 30 年度では 24 名と最多となり、その半数が中国国籍であった。

⑤ 在学中の男子学生数と男子学生入学受入れの有無

在学中の男子学生数は平成 25 年度が 28 名、平成 26 年度は 31 名、平成 27 年度は 36 名、平成 28 年度は 32 名、平成 29 年度は 33 名、平成 30 年度は 42 名と調査開始以降はじめて 40 名を上回った。男子学生入学受入れの有無については受入れ「有り」の養成校は 78 校 47.7%と年々増加している。

⑥ 歯科衛生士養成校の専任教員数

歯科衛生士養成校の専任教員数は合計 1,204 名で昨年度よりも 28 名増加した。その内訳は、歯科衛生士 950 名(20 名増)、歯科医師 176 名(17 名増)、その他 82 名(9 名減)であった。専任歯科衛生士 1 名に対する在学学生数の平均は約 24 名程度で昨年とほぼ同じであった。

⑦ 入学者数と卒業生数の比較

本年度は平成 26~27 年度の入学者の卒業までの動向を調査することによって、3~4 年間の脱落者の割合を算出した。その結果、全体の脱落者の割合は 10.8%で 1 割以上に当たる約 850 名の者が卒業に至っていない。学校種別では専門学校が 11.7%、短期大学が 7.2%、大学が 2.3%となっている。(この値は入学者数と卒業生数の差から割合を算出したもので、留年者および休学者などは考慮していない)

歯科衛生士養成校入学定員・志願者数等の動向経年調査 2018

表1 卒業，就職，求人状況および入学定員，志願者，入学者数について

平成29年度				平成30年度		
卒業者数	就職者数	求人件数	求人人数	入学定員	志願者数	入学者数
6,975	6,481	85,983	136,418	9,055	9,903	7,570
20	▲6	1,172	3,229	220	▲759	▲293

164校/164校中(回答率 100%)

(前年比)

就職者に対する求人件数倍率	13.3
就職者に対する求人人数倍率	21.0
志願者倍率=志願者数/入学定員	1.09
定員充足率=入学者数/入学定員×100	83.6%
志願者数が定員に満たない学校	44.4%
入学者が定員に満たない学校	59.9%

表2 入学定員充足率と志願者倍率等の年次推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入学定員充足率	85.2%	91.2%	93.2%	97.1%	93.6%	91.8%	89.8%	89.0%	83.6%
入学者が定員に満たない養成校の割合(%)	56.8%	47.0%	45.7%	35.8%	46.5%	47.1%	48.7%	55.9%	59.9%
志願者倍率	1.13	1.21	1.21	1.32	1.29	1.26	1.21	1.21	1.09
志願者が定員に満たない養成校の割合(%)	43.2%	35.8%	35.1%	25.2%	29.0%	32.5%	36.1%	37.9%	44.4%

表3 学校種別の志願者倍率と入学定員充足率

平成30年度	志願倍率(倍)	入学定員充足率(%)
専門学校	0.98	81.5
短期大学	1.37	94.9
大学	2.51	94.6

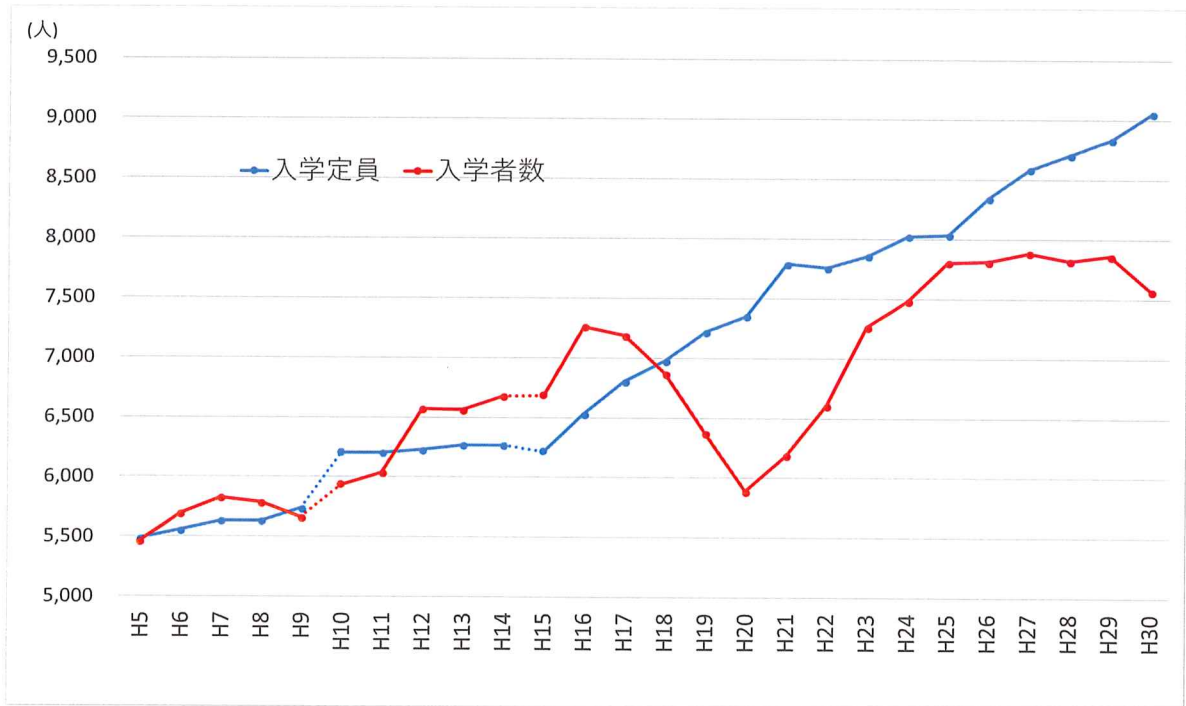


図1 歯科衛生士養成所の入学定員と入学者数の推移

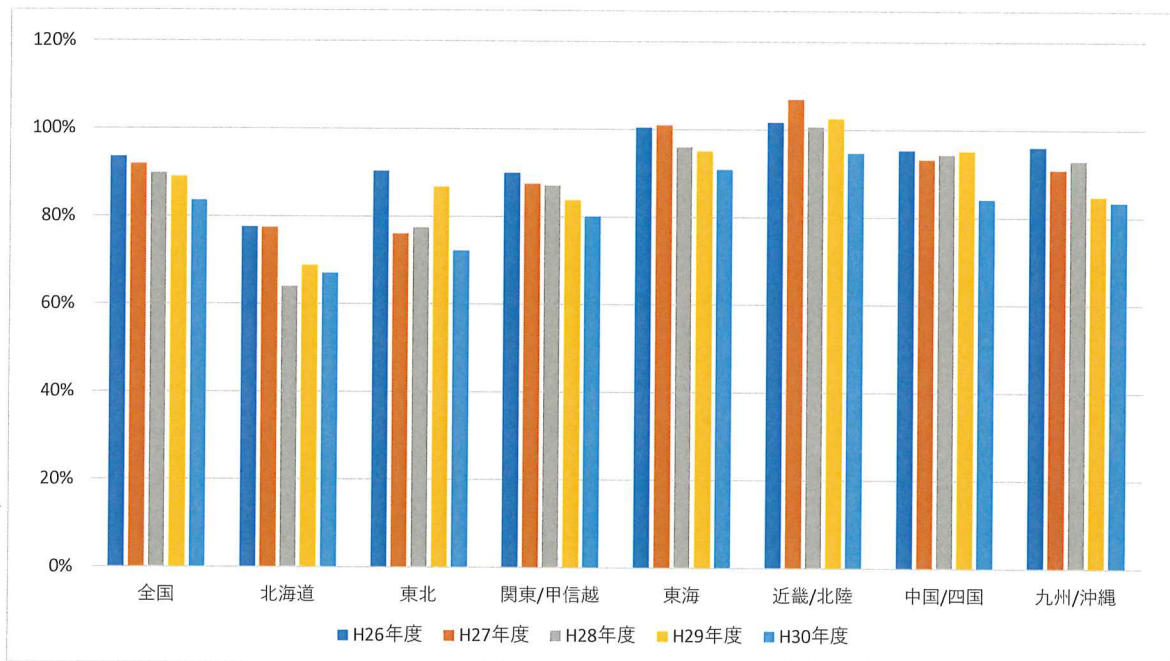


図2 地区別入学定員充足率の年次推移 (平成25年度～30年度)

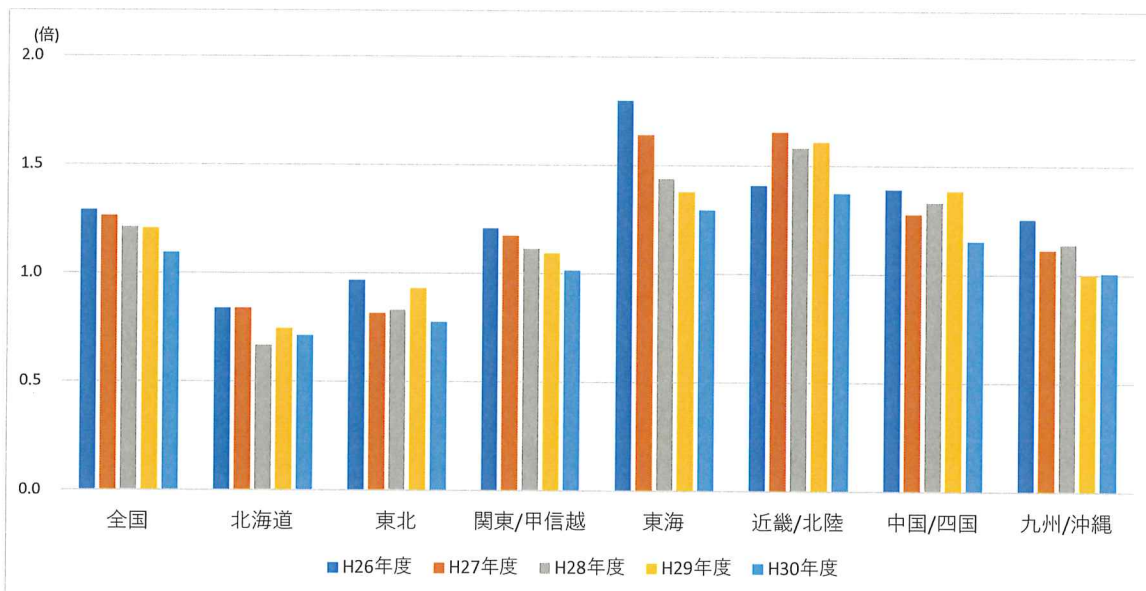


図3 地区別志願者倍率の年次推移(平成25年度～平成30年度)

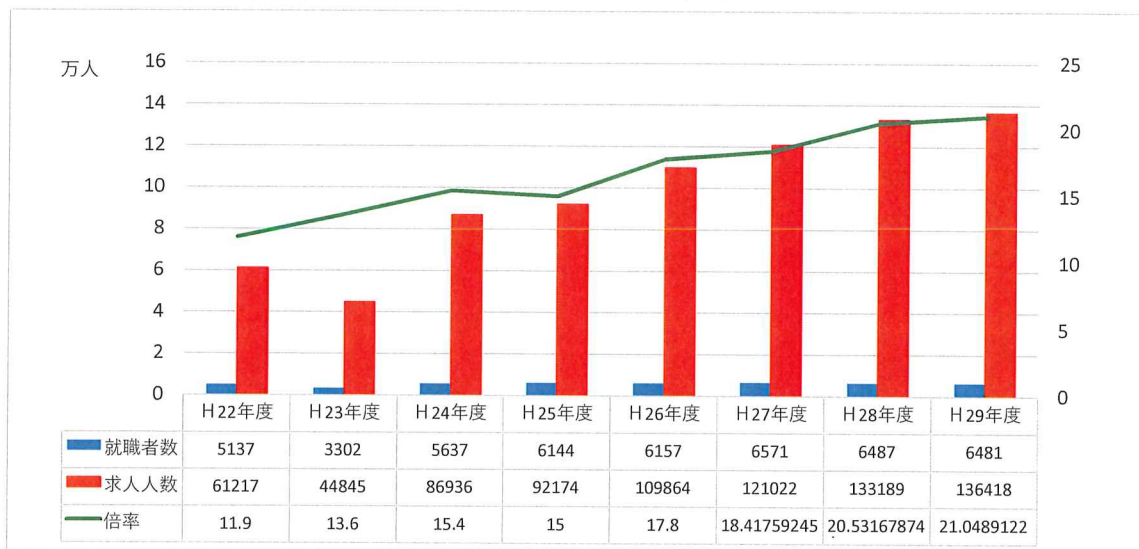


図4 就職者数・求人人数・求人倍率の年次推移

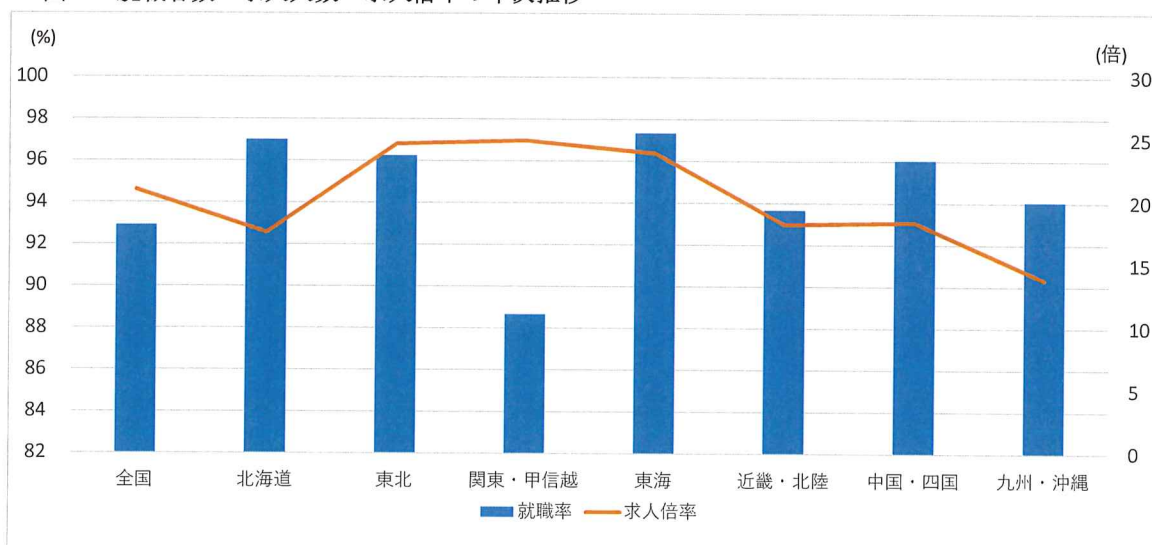


図5 地区別求人倍率と就職率